

ISO/TC34/SC16（分子生物指標の分析に係る横断的手法分科委員会）の概要

1. 当委員会の概要

(1) 名称：Horizontal methods for molecular biomarker analysis
分子生物指標の分析に係る横断的手法分科委員会

(2) 設立：2008年

(3) 幹事国：アメリカ

(4) 作業範囲：

Standardization of biomolecular testing methods applied to foods, feeds, seeds and other propagules of food and feed crops including:

- ・ Methods that analyze nucleic acids [e.g., polymerase chain reaction (PCR), genotypic analysis and sequencing], proteins [e.g. enzyme linked immunosorbent assay (ELISA)], and other suitable methods.
- ・ Variety identification and detection of plant pathogens.

The scope does not include food microbiological methods.

（仮訳）食品、飼料、種子及び食品、飼料作物のその他繁殖体に適用される以下の方法を含めた生体分子学的分析法の標準化：

- ・ 核酸を用いた方法（例：PCR法、遺伝子分析及び配列決定）、タンパク質を用いた方法（例：ELISA法）及び他の適切な分析法。
- ・ 品種判別法及び植物病原体検出法。

なお、作業範囲には、食品微生物学的分析法を含まない。

(5) ISO/TC34/SC16が直接責任を有する発行された規格数：39
（追補を含む）

(6) Pメンバー：26ヶ国

(7) Oメンバー：20ヶ国

(8) ISO/TC34/SC16に設置されているWG（作業グループ）

WG番号※ ¹	作業部会名（仮訳）	コンビーナの出身国
8	肉種識別	日本
9	種子及び穀物のサブサンプリング	日本
10	高速核酸増幅法	アメリカ
JWG11※ ²	農業及び食料生産のためのバイオバンキング	アメリカ
JWG12※ ³	農業繊維の分子生物指標	アメリカ
13	マイクロアレイの検出	日本
14	遺伝子組換え体の検出と定量化	アメリカ
15	定性リアルタイムPCR分析法の単一試験所による妥当性確認	ドイツ
16	ISO16393の改訂	アメリカ
17	DNAに基づく方法による食品中の植物種の分析	-
18	次世代シーケンス標準	アメリカ

※1：WG1（新たな検知法の評価）及びWG2（新たな検知法の追加に必要な情報及び手続き）は、部会の目的が達成されたためそれぞれ2011年及び2013年に解散。WG7（品種判別ーバスマティ米）は、その作業範囲がWG3に含まれることから2014年にWG3に統合。WG6（分析法提案のための指針）は、規格作成作業が中止されたため2018年に解散。WG4（植物病原体）は2018年に、WG3（品種判別）及びWG5（定性法）は2019年に検討される規格がなくなったため解散。

※2：TC276（バイオテクノロジー）との共同作業グループ。

※3：TC38（繊維）との共同作業グループ。

2. 国内の検討体制について

規格の検討に際し、FAMICは国内審議団体としてISO/TC34/SC16国内対策委員会を設置し、幅広く国内意見を取りまとめ、投票や意見募集に対して適切な対応を行っております。また、分子生物指標分析に係る規格案の検討に際しては、専門的な知識を要することから、分子生物指標規格専門分科会を設置し、対応しております。